

## 会議録（会議要旨）

会議名	第2回武蔵村山市教育大綱・教育振興基本計画策定懇談会
開催日時	令和3年10月5日（火）午後7時から午後8時50分まで
開催場所	401大集会室
出席者 及び 欠席者	出席者：染谷委員、大野委員、押本委員、島田委員、齊藤委員、川島委員、 小川委員、勝亦委員、羽鳥委員、北田委員、久保田委員 欠席者：なし
傍聴	0名
報告事項	(1) 第1回武蔵村山市教育大綱・教育振興基本計画策定懇談会の会議結果について (2) 学校アンケート調査結果について
議題	(1) 武蔵村山市第三次教育振興基本計画（素案）について (2) その他
結論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務局が作成した提言案について修正等があった場合は、座長に一任し、事務局と調整して決定する。</li> <li>・ 事務局が作成した提言案及び会議録について修正等があった場合は、座長に一任し、事務局と調整して決定する。</li> <li>・ 追加意見等があれば、10月12日までに事務局へ提出する。</li> </ul>
審議経過	<p>1 開 会</p> <p>2 報 告</p> <p>(1) 第1回武蔵村山市教育大綱・教育振興基本計画策定懇談会の会議結果について</p> <p style="padding-left: 2em;">—事務局から説明—</p> <p style="padding-left: 2em;">—質疑等—</p> <p style="padding-left: 2em;">特になし。</p> <p>(2) 学校アンケート調査結果について</p> <p style="padding-left: 2em;">—事務局から説明—</p> <p style="padding-left: 2em;">—質疑等—</p> <p>(座 長) アンケートの結果について、事務局で重点や取り上げて欲しい項目はあるか。</p> <p>(事務局) 学力向上や家庭の教育力について多く意見があった。</p> <p>(委 員) 問6の結果を見て、礼儀や挨拶等の本来家庭で教えるべきことを学校に任せていると感じた。</p>

(委員) 確かにベースは家庭にあるべきだが、全部を家庭に任せてよいというわけではないと思う。学校は家庭とは違った視点から人間を育てる場所なので、家庭ばかりを責めるのもどうかと思います。

(委員) 中学校でも礼儀やルール、マナーについては道德の授業で教えている。これまでは学校の中で保護者を見ると子供たちは挨拶をしていたが、コロナ禍で地域行事がなくなり、保護者なども来なくなってしまったので身に付いていたものが活かされず残念に感じている。

(座長) 子供へのしつけについて、学校まかせになっている保護者も多い。子供を叱るべきシーンを地域の方が目撃しても声をかけるだけで不審者扱いされるため、注意できない現状がある。しかし、武蔵村山だからこそ地域と学校、家庭の十分な連携が可能ではないかと思う。

(委員) 地域への期待が大きいと感じるので、しっかりと連携を大切にしていきたい。

(座長) コロナ収束後、これまで以上に礼儀や挨拶を大事にすることを学校、家庭、地域の皆で指導できる雰囲気をつくればよいと思う。

(委員) 「児童生徒の学力への向上心が低い」という指摘があるが、その原因として思いつくものは何かあるか。

(事務局) 原因の分析は難しいと思うが、家庭環境もある程度影響しているかと考える。

(委員) 本校の児童を見る限り向上心がないわけではない。他市の小学校では中学受験する児童もいるが、自由な心を伸ばすことも学力につながると日頃から思っている。欠点に目を向けることも大切だが、長所を引き出してあげたい。

(委員) ここ数年どの中学校も落ち着いて、学力も少しずつついてきている。保護者へのアンケートで家庭学習の時間が少ないとわかっており、それが課題である。進路を決める際には高みを目指してほしいが、欲がないと感じている。

(委員) 「向上心が低い」という言葉だけにとらわれる必要はないと思う。

### 3 議 題

#### (1) 武蔵村山市教育振興基本計画（素案）について

—事務局から説明—

—質疑等—

(委員) 国が作った文章の引用であることは理解するが「レジリエンス」という言葉は一般的ではない。説明がある方がよいと思う。

- (事務局) あまり一般的ではない言葉については、巻末に参考資料として用語解説を掲載する。
- (委員) 「子供たち一人一人」、「児童・生徒一人一人」と使い分けているが、前者は子供全般、後者は小中学生を指すという理解でよいか。
- (事務局) 委員発言の解釈で問題ない。
- (委員) 「体力向上策の推進」のところに「体力テストを実施」とあるが、どういふものをテストの項目に入れるのか。
- (事務局) 東京都が実施しており、項目としては、代表的な種目である50m走やハンドボール投げなどがある。この結果に基づき、各学校での取組につなげている。
- (委員) 「学力向上策の推進」の「小学校漢字検定の実施」の主要施策に「市独自の漢字検定」とあるが、普通の漢字検定ではだめなのか。
- (事務局) 以前は日本漢字能力検定協会の問題用紙で実施していたが、予算等の関係で、市独自で問題を作成し、実施している。
- (委員) 周りで不登校気味の子が増えている。以前は学校が柔軟な対応をしていたが、最近はそうでもないということを知っている。心の病気まではいかないが学校に行けない子供たちに対する何か対策をしてもらえないかと思う。少し課題がある子供たちに対する施策があるか、確認をお願いしたい。
- (委員) 現在住んでいる学区は事情のある家庭や外国人が多く、学校に行きたくても行けない子が多いと知っている。地域に合った柔軟な対応をしていただきたいと思う。
- (事務局) 各学校にスクールカウンセラーが配置されており、教育センターには教育相談員が常駐している。
- (委員) そのことは学校も承知しているのか。
- (事務局) 承知している。
- (座長) スクールソーシャルワーカーが、不登校の子の家を訪ねて話をする取組も行われていると思う。コロナが恐くて学校に行けない子もいるが、一段落しても行きたがらない子供が増えるのではないかと、どこも心配している。
- (委員) 本校では、580人の生徒のうち、15人くらい不登校の子がいる。学校までは行けるが教室に入れられないという子もいる。
- (委員) 本校にも教室に入れられないという子がいるが、別室登校にしてスクールカウンセラー、元教員のボランティア、スクールソーシャルワーカーに対応をお願いしており、どうしても登校できない子に対してはオンライン授業を行っている。
- (座長) 支援が必要なお子さんが増えている中、どういふ手立てを講じていく

べきかということで、学校側にとっても、切実な問題になっていると思う。

(委員) 36ページに「武蔵村山市を愛する心や、伝統や文化を継承しようとする態度を育みます」とあり、アンケートでも「行事への教員の休日参加」との意見が出ている。本市の先生も児童生徒を連れて行事に参加することで、地域の良さを知るきっかけになると思う。

(委員) 「小学校補助教員の派遣」「介助員・特別支援教育支援員の配置」について、児童・生徒数に応じて配置が決まっており人数を増やせないことを聞いている。予算のこともあると思うが、子供たちを大切にするのであれば人を増やすべきだと感じている。

(事務局) 補助教員等を多数配置することにより、子供たちへの支援が充実するのは理解している。教育委員会としても優先順位を決めながら多くの予算を獲得できるように予算要望しているが、保護者の方の要望に応えきれていないことは承知している。

(座長) 予算のことは難しいが、増員の要望に対応できるよう頑張っていたいただければと思う。

(委員) 「心と身体健康管理の充実」に関連してですが、死にたいと言ってきた子がいる。いじめている側はいじめだと思っていない可能性もある。私たちにできることといえば、話を聞くことだと思っている。

(委員) いじめた側は忘れても、いじめられた側は心の傷として残る。それを周りが察知することが必要であると思う。

(座長) 二人の委員からいじめに関するお話があった。都では電話相談という取組があるが、市としての取組はあるのか。

(事務局) 各学校にスクールカウンセラーを配置しており、気軽に相談できる体制をとっている。いじめに対する市独自の取組というものはない。

(座長) スクールカウンセラーは常駐ではないため、できれば市主体の相談事業等を検討してもらいたい。

(座長) 体力テストの数値目標として、シャトルランと持久走を取り上げているが、根拠はあるのか。

(事務局) 現行計画にも同じ項目で数値目標が載っているが、当初どういう経緯でこの2項目がピックアップされたのかは把握していない。

(座長) 持久力が全国や都の平均と比べて低いためこの2項目が取り上げられたのかもしれないが、確認していただければと思う。

(委員) 教員の働き方改革について、本校では6時半まで部活動があり、終わっても翌日の教材研究等を行っている。外部指導員、地域の人材、教育ボランティアの導入等、働き方改革について、更なる工夫が必要だと思う。

- (委員) 「個に応じた支援と指導の充実」は大きな柱になると思う。特別支援教育の研修は受けたが、情緒障害は実際の子供を見てみないとわからなかった。多様な人間がいることを理解しながら個に応じた指導の充実を図りたいと思う。
- (座長) 情緒障害学級等についての考えはあるか。
- (事務局) 情緒障害特別支援学級については、令和5年4月から村山学園に新設ということで準備を進めているところである。
- (座長) 本来は多くの学校に情緒障害学級を併設することが望ましいとされている。現状としては難しいと思うが、当事者及び周りの子のためにも今後の検討が必要になってくると思う。
- (委員) いじめに目を光らせること、学力向上、児童生徒の健やかな成長等多くのことが先生に求められている。それだけに働き方改革を進め、諸問題に対応できる余力を先生方に持っていただく必要があると思った。
- (座長) 26ページの「道徳的実践活動」という言葉に引っかかる。“道徳的実践力”という言葉はあるが「道徳的実践活動」はおそらく使われない言葉である。様々な学校全体の教育活動を通してということであれば問題ないので、検討していただければと思う。
- (委員) 小中一貫教育を推進しているということだが、問題点はあるか。
- (事務局) 小学校と中学校の学区域が完全に一致していないため、進学先の中学校が複数になる小学校がほとんどであるため、小中一貫教育・小中連携教育においては一定の課題があると感じている。
- (座長) 学区域については、今後もこのままなのか。
- (事務局) 現状では学区域を大きく変更していく検討はしていない。
- (委員) 現在の学区域のままで、できる範囲で連携や協力体制を図っていくという捉えでよいか。
- (事務局) そのとおりである。
- (委員) スポーツ少年団が現時点で2団体であり、数値目標が7団体となっている。どのような団体を増やすのか、確認していただければと思う。
- (委員) 小中一貫校の教育は、9年間で充実しており、良いと思う。また、中学校が選択制であるのも他市からは羨まられるが、双方の矛盾が気になる。
- (委員) 「学校施設・設備の整備」について、施設が整備されることにより、外部団体の利用が促進され、良いと思う。しかし、実際に利用すると、小学校の体育館のトイレの流れが悪いと聞いている。ぜひ、そこを改善してほしい。
- (委員) 「総合型地域スポーツクラブの運営支援」とあるので、今後も支援願

いたい。

(委員) 働き方改革に関連して、以前は各校で研究活動をしており、先生方の勉強になる一方、負担でもあったと思う。今も研究活動をしている学校はあるのか。

(事務局) 現状でも各校で研究活動は行っているが、その量は減っている。

(委員) 末っ子が小中一貫校の9年生だが、周りとのよい関係を築けた。しかし、緊張感がないまま中学生になったため、7、8年生当時は学力が上がらなかったこともあり、一長一短あるが、合う子にはマッチする学校だと思う。

(委員) 「青少年リーダーの養成」に関して、小学2年生からリーダー養成のためキャンプをする会に入っており、中学3年生まで行っていた。本計画にも「青少年リーダーの養成」と記載されているが、続いているのか。

(事務局) 文化振興課が小中高生を対象に宿泊訓練、野外活動を通して地域のリーダーを養成する活動は今も続いているので、それに参加されていたと思う。しかし、そこから波及して次の活動につながるような仕組みは構築されていない。

(委員) キャンプを通して培ったチームワークで何かできるかと思っていたが、音信不通になってしまった。あの会でもう少し活動できれば効果的な団体になれたのではないかと思う。

(委員) 「学校給食の充実」について、コロナも落ち着いてはきたが、また感染が拡大する可能性もある。給食センターでクラスターが発生した場合の対策案を考えているか。

(事務局) 小学校の給食は給食センターで作っており、中学校は外部に委託している。その委託先に小学校の分を一部お願いすることは可能であることは確認しているが、給食センターが閉鎖になれば基本的には一時的に給食が提供できなくなってしまう。ただし、感染対策については、十分講じている。

(委員) 給食センターはずっと現状のままか。建物を新設する計画があったのではないか。

(事務局) 防災食育センターを令和7年度から稼働する計画をしている。平時は給食センターとして、災害時には食事を提供できる複合施設となる予定である。

(委員) 「学校ICT環境の整備」について、最初は校内のネット環境もあまりよくなかったが今は整備が図られ、感謝している。GIGAスクール構想に関して本市は遅れがちだと思っていたが、急速に進んできた。保健体育のマット運動では、タブレットを使って動画を撮り、お

	<p>互い指摘しあっており、授業の充実につながっている。</p> <p>(委員) G I G Aスクール構想に関しては市教委の努力の賜物だと感じている。引き続き I C T環境の整備の充実を図っていただければと思う。</p> <p>(座長) 先生方の負担を軽減するためにも I C T支援員によるフォローが必要だと思う。是非とも計画的に配置していただければと思う。</p> <p>(委員) 数値目標について、市民会館の利用者数など、現状値と目標値に大きな差がある。現状値がコロナの影響を受けたからだと今は理解できるが、数年後には理由がわからなくなるかもしれないので、数字を載せるにあたっての工夫が必要ではないかと感じた。</p> <p>(座長) 学校図書館の整備・充実は以前からの課題である。タブレットで予約できるようにしたり、また市立図書館との連携についても引き続きお願いしたい。</p> <p>(座長) 余裕教室の活用については、今後の児童生徒数を見越した上で考えていただければと思う。</p> <p>(座長) 追加意見等があった場合は、質問票に記入し、後日担当課より回答するというところでよろしいか。</p> <p>(委員) 異議なし。</p> <p>(座長) 委員意見を事務局で取りまとめ、教育委員会への報告書を作成し、各委員の承認後に提言を行う。なお、報告書案に修正等がある場合は座長に一任するというところでよろしいか。</p> <p>(委員) 異議なし。</p> <p>(2) その他</p> <p>(事務局) 追加意見等があれば質問票に記入し 10月12日までに提出をお願いする。</p> <p>本日の議事録は事務局で作成後、各委員に送付するため、確認をお願いする。</p> <p>会議録及び提言については、各委員が確認後、決定するが、修正があった場合には、座長に一任いただき、事務局と調整の上、決定させていただく。</p> <p>(委員) 意見書は直接持参してもよいのか。</p> <p>(事務局) 問題ない。</p> <p style="text-align: right;">一以 上</p>
作成者	教育総務課